

表紙欠

K220.72

39

1

外定

甲

字

帖

一



新定  
中等習字帖

仰拜千

代田宮

俯希忠

良之民

天地廣大

日月昭明

春去夏來

草木茂生

萬邦協和通

商賈貿易益興



體ヲ練リ氣ヲ養ヒ遠大ノ志ヲ勵スベシ  
陰ヲ惜ミ勞ニ服シ學習ノ務ヲ盡スベシ  
儉ヲ崇ビ約ニ處リ質素ノ風ヲ守ルベシ

師ヲ敬ヒ友ヲ親ニ誠實ノ意ヲ厚クスベシ  
紀ニ循ヒ律ヲ重ンジ公共ノ義ヲ立ツベシ  
勅語ノ旨趣ヲ奉ジ高潔ナル品格ヲ具フベシ

雞鳴に起きざれ

一ノ七

ば日暮に悔あり

道路橋梁必修繕

船舶舟楫要改良

兵役と納税とは國

一ノ九

民の二大義務なり

日貯蓄十錢當知五十

年後殆達萬圓之巨額

十一月十五日 朝風寒く橋上霜雪の如し放  
課後の撃劍一層勇ましく稽古せり

十六日 曇後霽る學校の歸途父の用にて高

田に行き薄暮家に歸る

十七日 朔風骨に沁みて遠山已に白し歴史  
の受業益興を覺ゆ夜算術の宿題を研究す

恭しく新年を賀し奉る

謹みて新正をほきまつる

御歲暮御年玉祝儀見舞鯉節  
錢別香資寸志薄謝輕少火鉢

一對額二面掛物三幅椅子四  
脚提燈五張膳椀十人前



七日に若菜を摘み  
十五日に小豆の粥

を祝ふは我邦古來  
の習慣なり

夜深寒氣烈人語四隣無

只有梅花在書窓月不孤

新緑鮮かなる時候と相成り候  
處叔父上様には其後如何御起  
居あらせられ候か御伺申上げ

候私事御蔭にて極めて壮健に  
勉強致し居り候来る十二日より  
學年試験相始まり申すべく

目下復習に忙はしく修ま、叔  
母上様に別状さしあげ申さず  
候間何卒叔父上様より宜しく

ア十七

御傳聲下されたく候教具

三月二日

勉  
三

御叔父上様

高知市唐人町十三番地

花山芳次郎様

平信

緘

東京市本郷區曙町四番地

月日

若柳清吉

# 海雀正長書



明治四十二年三月六日印刷  
明治四十二年三月九日發行

定價各金廿貳錢

不許  
複製

編輯者

友田宜剛

東京府豊多摩郡四久保四十七番地

書者

丹波正長

東京市四谷區傳馬町壹丁目卅五番地

發行兼印刷者

青野友三郎

東京市日本橋區通四丁目七番地

發行所

日本橋區通四丁目七番地  
(電話本局三二五八番)

文魁堂書店

